

世界がもし100人の村だったら

本日の集会は、全て生徒会本部が主催しました。本部の皆さんが作成した動画では、SDGsの目標を身近なものとして分かりやすく伝えることができました。出演をした生徒や小澤先生も熱演でした。ありがとうございました。クイズも勉強になりました。初めて知ったこともたくさんありました。例えば「既に日本が達成している目標は3つある」ということです。その中の1つが「3 質の高い教育をみんなに」でした。確かに、日本の教育制度は整っていると思います。一方、世界の現状はどのようなものなのでしょう。

今日は、ここに本「世界がもし100人の村だったら」を持ってきました。「3 質の高い教育をみんなに」に関しては、「世界がもし100人の村だったら④子ども編」の中の次の一節がありますので、紹介します。

世界の子ども100人のうち／小学校に行くのは87人です／中学校に行くのは40人です／そのうち20人は、とちゅうでやめました／60人は、はじめから行っていません／子どもたちが中学校に行かないのは、貧しさや、戦争や、飢饉のためです。

皆さんは、世界全体の中で見れば、100人のうちの20名なのだということがわかると思います。

SDGsの17の目標は世界を見る「窓」のようだとも思います。皆さんは世界規模で物事を捉える必要もあります。その反面、先ほど大野生徒会長がお話していたように、SDGsの目標は決して特別なものではなく、私たちが自分事として考えていかなくてはならないものでもあります。「考える」というより「行動する」といった方がいいかもしれません。現在、富士見中学校で取り組んでいる「ペットボトルのキャップ回収」「フードドライブ」などは、その一例です。「SDGs = 環境問題」と考えがちですが、「5 ジェンダー平等を実現しよう」「10 人や国の不平等をなくしていこう」などの目標は先日の人権旬間の内容とも結びつくでしょう。

本日のSDGs集会で、皆さんは多くのことを学びました。学びはまだまだ続きます。SDGsの目標達成は皆さんに任されています。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣